

オリエンタル系ユリの球根肥大状況について(2月16日現在)

平成29年2月20日
 経営普及課
 (農業革新支援担当)

新潟県農業総合研究所園芸研究センター、中山間地農業技術センター、高冷地農業技術センターにおけるオリエンタル系ユリ球根定期観測結果から、今年の球根肥大及びノーズ形成状況についてご紹介します。

1 供試球根

(1) 調査品種：カサブランカ(2015年オランダ産TYS球根)

(2) 球根サイズと前年との比較

供試 年度	球根 サイズ	球根重 (g)	球周 (cm)	りん片 (枚数)	葉数 (枚)
2016	14/16	47.3	16.2	25.7	35.8
2015	14/16	41.8	15.2	24.3	35.2

※各センターとも同一ロットの球根を供試し、園芸研究センターで調査した。

2 耕種概要

観測場所 (所在地)	園芸研究センター (聖籠町)	中山間地農技センター (長岡市川口)	高冷地農技センター (津南町)
栽植距離	20×20cm 4条植	20×20cm 4条植	20×20cm 5条植
定植日(前年度)	4月1日(4/8)	4月19日(5/25)	4月27日(5/2)
施肥 N-P ₂ O ₅ -K ₂ O (kg/10a)	基肥	15-15-15(4/1)	14-12-13(4/10)
	追肥 (実施日)	5- 5- 4(6/2)	無施用
収穫日(前年度)	10月26日(10/27)	11月1日(11/6)	10月31日(11/13)

※球根収穫後は、各センターとも自然温で球根を保管し、ノーズの発達等を調査した。

3 生育・葉分化等の状況

- (1) 開花盛期は、園芸研究センター(以下園研セ)で7月11日(前年7月17日)、中山間地農業技術センター(以下中山間セ)で7月22日(前年7月31日)、高冷地農業技術センター(以下高冷地セ)では7月31日(前年8月3日)と、各センターとも前年より早まった。
- (2) 各センターとも定植後は天候に恵まれて順調な生育を示し、茎長は前年を上回った。
- (3) 各センターとも秋冷とともに葉の黄化が徐々に進み、球根肥大の停止を確認して、10月下旬～11月初めにかけて球根を収穫した。
- (4) 各センターとも球根肥大は良好で、球根重・球周は前年を大きく上回った。
- (5) 各センターとも気温の低下に伴い、12月下旬にはノーズ伸長及び葉分化は停滞期に入ったと考えられる。
- (6) ノーズ長は前年に比べ、園研セでは同程度、中山間セでは短め、高冷地セではやや長めである。
- (7) 葉分化数は前年に比べ、園研セでは多め、中山間セでは少なめ、高冷地セではかなり多い。
- (8) 茎軸の糖度(Brix値)は、園研セでは前年並みで順調に高まってきている。中山間セでは前年よりもかなり高く推移してきたが、1月上旬をピークに低下してきている。高冷地セでは前年よりもやや低く数値は停滞している。

4 具体的データ

添付ファイル「L20170216data」及び図1～図6を参照。

※ 2016花き生育情報（ユリ球根肥大及びノーズ形成）は、今回で終了です。



図1 園芸研究センターにおける球根肥大状況（左：球根全体、右：新球）



図2 園芸研究センターにおけるノーズの伸長状況



図3 中山間地農業技術センターにおける球根肥大状況（左：球根全体、右：新球）



図4 中山間地農業技術センターにおけるノーズの伸長状況



図5 高冷地農業技術センターにおける球根肥大状況（左：球根全体、右：新球）



図6 高冷地農業技術センターにおけるノーズの伸長状況